

「第 2 次宇都宮市食育推進計画」の評価について

1 計画の体系

本計画は、市民が食育の「実践」を通して、生涯にわたり人間力の向上を図るための指針として基本理念を掲げている。

また、基本理念のもと、市民の目指すべき姿として 4 つの基本目標を掲げるとともに、基本目標の達成指標となる実践目標（数値目標）を設定している。

さらに、基本目標を達成するため、食育に関わりが深く、相互に関連する 6 つの「基本施策」を計画施策の体系の柱とし、連携を図りながら一体的に食育の取組を推進している。

〔計画の体系〕

基本理念

食の大切さを理解し、食に対する感謝の気持ちを深め、心身の健康と豊かな人間性を育み、人間力の向上を図る。

基本目標 1：毎日きちんと朝ごはんを食べます。	実践目標 市民の食育の実践度を把握するものであり、基本目標の達成指標（12 項目の数値目標）
基本目標 2：バランスのとれた食事を楽しく食べます。	
基本目標 3：地元でとれたものを無駄なく美味しく食べます。	
基本目標 4：食に対する関心や感謝の気持ちを持ちます。	

6 つ の 基 本 施 策

	家庭における食育の推進	幼稚園、保育園、学校における食育の推進	地域における食育の推進	農や環境への理解を通じた食育の推進	食文化への理解を通じた食育の推進	食の安全・安心への理解を通じた食育の推進	合 計
事業数	16	13	16	8	5	5	63
重点	2	3	7	3	1	1	17

2 施策事業の進捗について（平成27年度実績評価より）

（1）評価基準について

評価の基準について下記のとおりとする。

- ・ 年次目標に対する進捗率が、90%以上 : A 達成している
- ・ 年次目標に対する進捗率が、70～90%未満 : B 概ね達成している
- ・ 年次目標に対する進捗率が、70%未満 : C 達成していない
- ・ 目標設定が困難 : -

（2）事業全体の進捗状況について（詳細は参考1）

評価	事業数	割合
A 達成している（進捗率90%以上）	37	58.7%
B 概ね達成している（進捗率70～90%未満）	17	27.0%
C 達成していない（進捗率70%未満）	8	12.7%
合計	62	

63事業のうち、平成27年度の年次目標に対して、[A 達成している]は37事業58.7%、[B 概ね達成している]は17事業27.0%となっており、事業の進捗状況は概ね順調である。

※63事業のうち「目標設定が困難」な1事業は除く。

（3）重点事業の進捗状況について（詳細は参考1）

評価	事業数	割合
A 達成している（進捗率90%以上）	6	37.5%
B 概ね達成している（進捗率70～90%未満）	9	56.3%
C 達成していない（進捗率70%未満）	1	6.2%
合計	16	

16事業のうち、平成27年度の年次目標に対して、[A 達成している]は6事業37.5%、[B 概ね達成している]は9事業56.3%となっており、事業の進捗状況は概ね順調である。

※63事業のうち「目標設定が困難」な1事業は除く。

(4) 基本施策の進捗状況について（括弧内の数字は重点事業数）

基本施策	家庭における食育の推進	幼稚園, 保育園, 学校における食育の推進	地域における食育の推進	農や環境への理解を通じた食育の推進	食文化への理解を通じた食育の推進	食の安全・安心への理解を通じた食育の推進	事業数
A	11(0)	7(1)	8(3)	4(1)	3(1)	4(0)	37(6)
B	5(2)	4(2)	4(3)	2(1)	1(0)	1(1)	17(9)
C	0	2(0)	4(1)	1(0)	1(0)	0	8(1)
合計	16	13	16	7	5	5	62
A・B割合 ※	100%	84.6%	75.0%	85.7%	80.0%	100%	

基本施策の進捗状況は、各構成事業の平成27年度の年次目標に対し、〔A 達成している〕と〔B 概ね達成している〕の割合は、すべて75%を超え、2つの基本施策においては、100%に達しており、施策の進捗状況は概ね順調である。

※63事業のうち「目標設定が困難」な1事業は除く。

3 基本目標の評価について

基本目標 1	毎日きちんと朝ごはんを食べます		心身の健康を維持するためには、規則正しい生活を心がけ、毎日朝ごはんをしっかり食べて、充実した1日を過ごすことが大切です						
実践目標	①朝ごはんを毎日食べる幼児の割合	平成23年度現況値	93.8%	▶	平成28年度	93.3%	目標値	平成28年度	100%
	②朝ごはんを毎日食べる小学6年生の割合	平成22年度現況値	95.8%		平成27年度	95.5%		平成28年度	100%
	③朝ごはんを毎日食べる中学3年生の割合	平成22年度現況値	93.3%		平成27年度	93.4%		平成28年度	100%
	④朝ごはんを毎日食べる高校生の割合	平成23年度現況値	85.2%		平成28年度	85.1%		平成28年度	100%
	⑤朝ごはんを毎日食べる20代の割合	平成23年度現況値	57.8%		平成28年度	59.5%		平成28年度	85%以上
	⑥朝ごはんを毎日食べる30代の割合	平成23年度現況値	76.7%		平成28年度	74.6%		平成28年度	85%以上

※上記①～⑥の数値については、「平成28年度食育に関する意識調査」の結果、②と③については、「学習と生活についてのアンケート」結果

■施策事業の取組状況

◇家庭における食育の推進

- ・望ましい食習慣の定着

重点事業名	指標	単位		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H27年度取組評価
朝食の重要性の普及啓発の推進	食育出前講座参加者数	人	目標値	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	概ね順調
			実績値	1,526	1,308	1,723	1,287	—	
			% 進捗率	101.7	87.2	114.9	85.8	—	

◇保育園、幼稚園、学校における食育の推進

- ・高等学校等における食育支援

重点事業名	指標	単位		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H27年度取組評価
高校生を対象とした食育出前講座の実施	食育出前講座の高校生参加者数	人	目標値	150	300	300	300	300	順調
			実績値	105	84	134	291	—	
			% 進捗率	70.0	28.0	44.7	97.0	—	

※取組評価については、目標に対する進捗率（90%以上：順調、70%以上90%未満：概ね順調、70%未満：遅れている）で評価

■基本目標1の評価と課題

① 評価

- ・食育に関する意識調査及び学習と生活についてのアンケートの結果では、実践目標として掲げた朝ごはんを毎日食べる人の割合は、幼児から中学生では90%以上を維持しているが、20代30代で低い。
- ・家庭における食育の推進では、乳幼児のいる保護者などを対象として食育の重要性を理解する取組を行ってきた。また、保育園、幼稚園、学校における食育の推進では規則正しい食習慣の定着に向けた取組に努めてきたところである。
- ・小・中学校などにおける食育の取組は効果的に行われていると評価できるが、高校生以降の食育の取組については、朝食の摂取や栄養バランスのとれた食事などの重要性を啓発する事業を図書館などで実施しているところであり、事業の進捗としては順調に進捗しているものの、成果としては十分とはいえない。

② 課題

- ・生涯にわたり健全な食生活を送るため、子どもの頃からの規則正しい食生活の定着を図る必要がある。
- ・20代や30代の若い世代の朝食摂取率の向上を図る必要がある。

基本目標2	バランスのとれた食事を楽しく食べます		心身の健康を維持するためには、栄養バランスのとれた食事を家族や友人と食卓を囲みながら、楽しく食べることが大切です						
実践目標	①肥満の人の割合（20代～60代男性）	平成23年度現況値	26.7%	▶	平成28年度	28.1%	目標値	平成28年度	17%以下
	②肥満の人の割合（40代～60代女性）	平成23年度現況値	15.4%		平成28年度	16.2%		平成28年度	減らす
	③食事バランスガイド等を参考に食生活を実践する人の割合	平成23年度現況値	36.2%		平成28年度	24.1%		平成28年度	60%以上
	④メタボ予防や改善のための行動を実践している人の割合	平成23年度現況値	24.4%		平成28年度	27.3%		平成28年度	50%以上
	⑤朝食又は夕食を毎日家族と一緒に食べる幼児・小学生の割合	平成23年度現況値	90.3%		平成28年度	90.5%		平成28年度	100%
	⑥よく噛んで食べる人の割合	平成23年度現況値	32.0%		平成28年度	31.1%		平成28年度	80%以上

※上記①～⑥の数値については、「平成28年度食育に関する意識調査」の結果

■施策事業の取組状況

重点事業名	指標	単位			H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H27年度取組評価
			目標値	実績値	進捗率	進捗率	進捗率	進捗率		
◇家庭における食育の推進 ・望ましい食習慣の定着	共食の推進	食育出前講座参加者数	人	目標値	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	概ね順調
			%	実績値	1,526	1,308	1,723	1,287	—	
			%	進捗率	101.7	87.2	114.9	85.8	—	
◇地域における食育の推進 ・食生活改善のための支援 ・生活習慣病予防の推進	食育出前講座の拡充	食育出前講座参加者数	人	目標値	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	概ね順調
			%	実績値	1,526	1,308	1,723	1,287	—	
			%	進捗率	101.7	87.2	114.9	85.8	—	
	食育情報コーナーの設置	啓発資料配布の延数	部	目標値	2,500	2,500	3,300	4,000	4,000	順調
			%	実績値	2,900	3,571	4,225	4,056	—	
			%	進捗率	116.0	142.8	128.0	101.4	—	
	食育教室の実施	参加者数	人	目標値	300	310	330	340	340	遅れている
			%	実績値	336	233	298	215	—	
			%	進捗率	112.0	75.2	90.3	63.2	—	
	ヘルシーメニューの開発・普及	試食の提供を通じた食生活改善アドバイス実施人数	人	目標値	495	1,400	1,400	1,400	1,400	順調
			%	実績値	779	1,863	1,262	1,272	—	
			%	進捗率	157.4	133.1	90.1	90.9	—	
	健康づくり栄養教室の実施	健康づくり栄養講座参加者数	人	目標値	160	160	190	220	220	概ね順調
			%	実績値	153	173	148	163	—	
			%	進捗率	95.6	108.1	77.9	74.1	—	

※取組評価については、目標に対する進捗率（90%以上：順調，70%以上90%未満：概ね順調，70%未満：遅れている）で評価

■基本目標2の評価と課題

① 評価

- ・ 食育に関する意識調査の結果から、20～60代男性や40～60代女性の肥満の人の割合は増加している。
- ・ 食事バランスガイド等を参考に食生活を実践する人の割合は減少している。
- ・ 食事バランスガイドは栄養教育の場で活用されているが、一般にはほとんど見かけなくなっていることから、これに代わるものとして「主食・主菜・副菜を1日2回以上食べる人の割合」について調査したところ、殆ど毎日食べている人の割合は55.0%となり、国の平成27年度食育に関する意識調査の結果の57.0%を下回る。
- ・ よく噛んで食べる人の割合は全年代において低いものの、小・中学生では増加傾向にある。
- ・ 家庭や地域における食育の推進の各事業は概ね順調であるが、肥満の人の割合が増加しており、成果が十分とはいえない。

② 課題

- ・ 肥満が増加していることから生活習慣病の予防や改善に努める人を増やす必要がある。
- ・ 歯周病予防や高齢者の誤嚥予防の観点から、全年代で、よく噛んで食べる人を増やす必要がある。

基本目標3	地元でとれたものを無駄なく美味しく食べます		自然の恵みや食の大切さを理解し、食や食に関わる人に感謝の気持ちを持ち、地産地消や環境に配慮した生活を送ることが大切です						
実践目標	①地場農産物をできる限り購入している人の割合	平成23年度現況値	41.8%	▶	平成28年度	35.5%	目 標 値	平成28年度	50%以上
	②食べ残しや食品の廃棄に関して気をつけている人の割合	平成23年度現況値	93.0%		平成28年度	92.4%		平成28年度	100%

※上記①～②の数値については、「平成28年度食育に関する意識調査」の結果

■施策事業の取組状況

◇地域における食育の推進

- ・生活習慣病予防の推進

重点事業名	指標	単位		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H27年度取組評価
ヘルシーメニューの開発・普及	試食の提供を通じた食生活改善アドバイス実施人数	人	目標値	495	1,400	1,400	1,400	1,400	順調
			実績値	779	1,863	1,262	1,272	—	
			% 進捗率	157.4	133.1	90.1	90.9	—	

◇農や環境への理解を通じた食育の推進

- ・消費者と生産者の相互理解の促進
- ・地産地消の推進
- ・環境との調和

重点事業名	指標	単位		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H27年度取組評価
うつのみやアグリファンクラブ事業の推進	会員数	人	目標値	4,000	—	—	—	—	—
			実績値	3,616	751	791	811	—	
			% 進捗率	90.4	—	—	—	—	
地産地消推進店認定制度の推進	推進店認定数	店	目標値	90	100	110	120	120	概ね順調
			実績値	84	75	88	90	—	
			% 進捗率	93.3	75.0	80.0	75.0	—	
もったいない生ごみ減量事業の推進	分別講習会等の周知啓発活動参加人数	人	目標値	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	順調
			実績値	10,150	9,749	10,440	9,380	—	
			% 進捗率	101.5	97.5	104.4	93.8	—	

※取組評価については、目標に対する進捗率（90%以上：順調、70%以上90%未満：概ね順調、70%未満：遅れている）で評価
 ※うつのみやアグリファンクラブ事業の推進については、計画年度途中から周知啓発をメールマガジンに変更したため目標値設定が困難

■基本目標3の評価と課題

① 評価

- ・食育に関する意識調査の結果から、地場産物をできる限り購入している人の割合は減少しているが、たまに購入する人の割合を含めると、地場産物を購入する人の割合傾向である。
- ・食べ残しや食品の廃棄に関して気をつけている人の割合は90%を超えて維持している。
- ・地産地消推進店のPRやイベントの開催、小・中学校における農業体験や交流給食の実施、食べ残しに対する市民への意識啓発などの取組により、食の大切さを理解し、食への感謝の気持ちを持つことにつながる事業が効果的に実施できた。

② 課題

- ・地産地消や食品の廃棄への関心や理解が高まってきているが、さらに食や環境への理解を高めるため、引き続き取り組む必要がある。

基本目標4	食に対する関心や感謝の気持ちを持ちます		食に関する様々な体験を通して、食の大切さを理解し、食への感謝の気持ちを深めるとともに、食に対する関心や知識を持つことが大切です						
実践目標	①食育に関心のある人の割合	平成23年度現況値	79.7%	▶	平成28年度	73.7%	目標値	平成28年度	90%以上
	②食事マナーに関心がある小学6年生の割合 ※	平成22年度現況値	81.2%		平成27年度	86.6%		平成28年度	100%
	③食事マナーに関心がある中学3年生の割合 ※	平成22年度現況値	71.5%		平成27年度	82.7%		平成28年度	100%
	④郷土料理や伝統料理に関心がある人の割合	平成23年度現況値	64.7%		平成28年度	65.4%		平成28年度	75%以上
	⑤食品の安全性に対して不安を感じている人の割合	平成23年度現況値	83.5%		平成28年度	71.8%		平成28年度	50%以下

※上記①～⑤の数値については、「平成28年度食育に関する意識調査」の結果、②と③については「学習と生活についてのアンケート」結果

■施策事業の取組状況

◇保育園、幼稚園、学校における食育の推進 <ul style="list-style-type: none"> 給食を通じた食育の推進 保護者の意識啓発を通じた食育の推進 	食事マナー指導の実施	食事マナーについて関心がある児童の割合	小6	%	目標値	100	100	100	100	100	概ね順調
					実績値	85.1	84.6	84.6	86.6	—	
					進捗率	85.1	84.6	84.6	86.6	—	
		中3	%	目標値	100	100	100	100	100		
				実績値	76.2	79.7	80.7	82.7	—		
				進捗率	76.2	79.7	80.7	82.7	—		
	お弁当の日の実施	小6	%	目標値	100	100	100	100	100		
				実績値	86.6	85.5	87.2	86.6	—		
		中3	%	目標値	100	100	100	100	100		
				実績値	75.8	77.8	79.5	79.1	—		
		進捗率	75.8	77.8	79.5	79.1	—				

◇食文化への理解を通じた食育の推進 <ul style="list-style-type: none"> 食文化の継承 	郷土料理講習会の開催	開催数	回	目標値	5	5	5	5	5	順調	
				実績値	5	5	5	5	—		
				%	進捗率	100	100	100	100		—

◇食の安全・安心への理解を通じた食育の推進 <ul style="list-style-type: none"> 食品の安全性に関する理解の促進 	リスクコミュニケーションの推進	講習会開催数	回	目標値	70	70	70	70	70	概ね順調	
				実績値	65	57	56	56	—		
				%	進捗率	92.9	81.4	80.0	80.0		—

※取組評価については、目標に対する進捗率（90%以上：順調、70%以上90%未満：概ね順調、70%未満：遅れている）で評価

■基本目標4の評価と課題

① 評価

- 食育に関する意識調査の結果では、食育に関心がある人の割合は減少しているが、食育の認知度は向上している。
- 郷土料理や伝統料理に関心がある人の割合は増加傾向にあることから、食文化の関心は向上している。
- 食事マナーに関心がある児童生徒の割合は増加しており、全校に学校栄養士を配置し食育の取組が効果的に行われている。
- 食品の安全性に対して不安に思う人の割合は減少しているものの、依然として7割の人が不安に思っている。
- 郷土料理講習会の開催や食品の安全に関する意見交換会の開催などの取組により、食文化への理解や食の安全・安心への理解につながる事業が効果的に実施できた。

② 課題

- 食品の安全性について不安に思う人が依然として多いことから、不安の解消に向けて引き続き取り組む必要がある。
- 食文化の継承のため、郷土料理などを次世代に伝えていく必要がある。

4 計画全体の評価

計画に計上した事業については、概ね順調に進捗しており、意識調査の結果から「食育の認知度」は向上している。

しかしながら、20代や30代の若い世代については、朝食を摂取する割合が低い状況にあり、若い世代を中心として食育を推進していく必要があることや壮年期の肥満の割合が増加傾向にあるなど、壮年期を中心とした生活習慣病の予防・改善に取り組む必要があることなどが課題として明らかになった。